

令和6年度 津久井支援学校 第3回学校運営協議会 議事録

日時	令和6年11月19日(火) 9時30分～11時30分
場所	神奈川県立津久井支援学校
出席	学校運営協議会委員8名 事務局9名
問合せ先	副校長 藤原 英明 電話 042-684-4872 (直通)
<p>1 開会挨拶(副校長)</p> <p>校長は、身内の不幸により本日欠席となります。ご理解ご協力をお願いします。今回第3回の学校運営協議会は、教育活動の中間の取組を報告させていただきます。年度末や次年度に向けてのご示唆をいただければと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>2 会長・委員あいさつ及び地域の状況共有</p> <p>3 学校評価アンケートの結果について 副校長より報告</p> <p>4 協議 ※○=質疑 ●=回答 ◎=意見・感想</p> <p>[委員]</p> <p>○保護者の見地から個別教育計画にはいろいろ配慮していただき満足しているが、具体的な課題とは何か。地域の特性を生かした自立度向上に向けての取組とは具体的には何か。また、出前授業でどんなことをしているのか。</p> <p>[事務局]</p> <p>●個別教育計画については、教員としての専門的な見立てに対して目標づくりと手立ての視点が欲しい。特に若い職員が多いので人材育成の面での課題がある。力ある高等部の生徒には、将来に向けて、自立通学を促していきたいと考えている。自立度向上に向けた取組では、地域の特性もあるが社会に出るにあたって準備を進めていく必要があると思う。出前授業を行う理由は、特別支援学校と交流先との小中学校とで目標づくりに違いが出てきてしまう。共生社会を目指していく上で、「友だちになりたい。仲良くなりたい。」ということを目指した交流となるよう交流先の教員や児童・生徒に伝えている。</p> <p>[委員]</p> <p>○「問14 学校は業務のスリム化を目指していますか」という問いについて、先生方にスリム化されているという実感が少ないのだろうと感じる。先生たちの業務負担を減らすために考えることはなにか。</p> <p>[事務局]</p> <p>●効率化を推進して行くことを考えている。仕事の振り分け等を進めていくことも大事であると考えている。職員の数が足りない実態もあり、県教育委員会とも相談していく必要があると考えている。</p> <p>●グループ内で業務の精選を進めている。効率化を来年度に向けて話し合っている。</p> <p>[司会]</p>	

◎神奈川県でも免許のない方（教員志望の大学生）を実習助手として働いてもらい、経験の場としての仕組みが整理されつつある。

[委員]

◎業務の効率化と省力化は、どこが肥大化しているのか吟味が大事。事務的な処理を省力化するのは良い。ただ、教育現場での対応を画一化していく、手を抜く、ということになってしまっは怖い。何をスリム化、効率化するのかという表記をいれなくてはいけないと思う。

[司会]

◎「問6 生徒の意思表出について」どう意思表出の手段を身につけているのか、学んでいるのか。子ども達が一番苦しんでいるところなのかもしれない。どう支援するかが見えてくるところに反映されてくるのではないか。

[委員]

◎職業体験を以前企画させてもらったが、地域にも会社がたくさんある。地域で体験できるような機会を増やせば、「やってみたいな」ということが見つかって、津久井地域で、ここで働きたいという気持ちが育ってくると思う。

[司会]

◎今後、学校の中でこのアンケート結果を共有され、具体的に後期、来年度に向けて検討されるということなので、次の機会に方針について報告してもらいたい。

5 学部（高等部）の取組について

高等部長より報告

6 協議 ※○=質疑 ●=回答 ◎=意見・感想

[委員]

◎発達幅が広い児童・生徒が集まっている学校である。ICTのアンケートに対応できる生徒も限られるのではないか。

[事務局]

●今回は言葉による理解が伴う方を中心にアンケートで行ったが、職員は生徒の実態に合わせてChromebookの課題の出し方を画像等でわかりやすく伝えられるように、試行錯誤しているところである。

[委員]

◎学校説明会以前参加した際に、漢字にルビがふってなかった。子どもたちにもわかるような説明会だと子どもたちの学校に対してのイメージが深まると思っていた。意思表出はわからないとできないと思う。

○高等部のICT教育は何を目指しているのか教えてほしい。使えることはよいこととは思いますが、リテラシーについては不安に思っている。犯罪等に巻き込まれることが心配。きちんと教育をしながらどうやって使わせていったらいいのか。

[事務局]

●Chromebookが導入されるにあたってリテラシーが重要だと考え、1学期の最初に指導を行った。卒業後の生活を考えたときに、こういう機器を使って何か表出ができればよいという思いがある一方で、誤った操作をして事件や事故にあわないように、SNSでの友達とのコミュニケーション

ョンについても気を遣って説明をしたつもりである。最終的に端末が利用できることが大きな目標ではなく、どういう利用がよいのか、どういうところに注意しなくてはいけないのかを伝えていきたいと考えている。

[委員]

◎社員は、毎月コンプライアンスチェックを行っている。それをきっかけに SNS の話など啓蒙をしたり、自分の行動を振り返ったりする機会としている。

先ほど、ルビの話があったが、社員の中には文書にルビをふっただけでは、設問の意味が分からない方もいる。実態に合わせた工夫が必要である。

[委員]

◎保護者への ICT 利用の啓発 (安全に活用するため) が必要だと思う。PTA でもやれたらいい。

7 各グループの取組について

指導推進GL

安全管理GL

連携支援GLの順で報告

8 協議 ※○=質疑 ●=回答 ◎=意見・感想

指導推進Gについて

[委員]

◎先ほど個別教育計画、IEP の話があったが、福祉の領域だと ICP、同じようなものを作っている。ケアマネージャーが年間計画や就労支援計画などを作成している。よかったら学校の個別教育計画の作成について参考にさせていただきたい。資料提供をいただけたら。

[委員]

○食に対する興味の促進について、あえてそれを研修する意味は何か。

[事務局]

●身体にとってどんな栄養があるのか、普段、何気なく食べているが身体はすごい機能を使っている。一般的なことをまずは教員が知ることで、偏食の強い児童・生徒がなぜ食べることに抵抗があるのか分かってくるのではないか。発達段階によって、苦手なものもやがて食べられるようになることもあることも知ることができた。皆と一緒に食べることは楽しいことへとつなげていく。

[委員]

○自立登校につなげていくには、どのように進めていくのか。

[事務局]

●地域柄、利用できる公共交通機関に限られる。三ケ木のバス停で乗り換えてくる生徒がいた場合、乗換えの見守りボランティアや通学について支援してくれる方の募集を考えている。

また、自宅付近から路線バスに乗り、途中の停留所で降り、そこからスクールバスに乗車し学校へ向かう等、いくつかの段階を経た自力登校も考えている。

[司会]

◎他校では、ボランティアによるバス内の見守り (バス内でのマナーや降車のためのボタン押し) をお願いしていた。

スクールバスで近くの駅で降りて、そこから歩いて学校に来たりとか、スクールバスを降りてから自力で昇降口へ移動することから始めたりしたこともある。三ヶ木で乗り換えの支援というのは良いかもしれない。

[委員]

◎通所施設の前提は、自分で来るとのこと。公共交通機関を利用して来られる方には相模原市から交通費補助がでる。送迎があるところもあるが、力のある方は積極的な推進をお願いしたい。

[司会]

○よく地域の小学校の通学を見守りしてくれるボランティアがいるが、この地域はどうか。

[委員]

●ダムのところにはボランティアが立っている。子どもの数が減っているのに、一緒に通学してくれるボランティアもいる。

安全管理Gについて

[委員より]

○Chromebookでの個人情報の取り扱いはどのように行っているのか。

[事務局]

●作成したデータは、Chromebook内のみに残す。クラウド上には、残さないようにと校内で共通理解をしている。データに関しては、担任がチェックをして管理している。

[委員]

◎データの扱いについては、慎重にしたほうがよい。

[委員]

◎将来、余暇の時間を楽しむツールとして活用している方もいる。趣味を持っているというのは生きていくうえで大事。そういう能力を伸ばしてもらえるとよいのではないか。

[司会]

○プールの管理や会計についてマニュアルを作成しているという説明だったが、これこそ教員以外に頼めるという可能性はないのか。

[事務局]

●プール管理については、薬剤を使うので注入方法を誤ると大きな事故につながるため引継ぎに関して課題がある。業者との連絡を取り合って説明を受けたり、マニュアルや表示の改善に取り組んだりしているが、司会が言われた点については学校の中だけでは、難しいところを感じている。

[司会]

○相模原市で業務の精選や改善に取り組んでいることがあるか。

[委員]

◎働き方改革の視点から考えると、学校は業務の効率化と教育の充実が対立してしまう傾向がある。その際には、目的を立ち返りながら業務の見直しを考えている。学ぶことの意義や目的の共有が大切である。手立てのみに焦点を当てすぎると本来の目的を見失っていく。

[委員]

◎プールの設備管理については、外注したらどうか。福祉業界では、食事提供、掃除は外注に出しているところもある。部活や設備管理は、外部に委託するなどの省力化に努めてほしい。

連携支援Gについて

[委員より]

○卒業後のサポートは、どのように行っているのか。

[事務局]

●卒業にあたり、3年生の2月～3月あたりで卒業生関係者会議(今まで関わってきた機関の方々これからお世話になる機関の方々)を開き、スムーズに4月からスタートできるように引継ぎを行っている。

また、アフターフォローについては約3年間は何かあったら対応している。卒後1年目は元担任が夏季休業中に進路先に訪問し、進路先の方や本人の話を伺い、相談する等のアフターフォローを行っている。

9 各部会の取組状況の報告

防災部会

切れ目ない支援部会

の順に報告

10 協議 ※○=質疑 ●=回答 ◎=意見・感想

防災部会について

[委員]

○2月2日、相模湖地区で大規模な災害における訓練を行う予定だが、参加の予定はあるか。

[事務局]

●2月に相模湖地区で孤立対策事業の一環で大規模災害における訓練に見学参加する予定。今回は奥畑地区は対象の地域ではない。7～8年前には本校の地区を対象とした訓練が行われたと聞いている。

[委員]

●その時は、ヘリコプターが降りる場所がなかった。

[司会]

○衛星電話というのは、自治会にはあるのか。

[委員]

●自治会にはある。

[事務局]

●有事の際に孤立した場合でも使用できる、衛星電話の導入について、県への要望を考えているがいかがか。

[司会]

●学校運営協議会は必要だと決まったことを県に要望することができる。

衛星電話について、学校運営協議会として県に要望していく。

切れ目ない支援部会について

[委員]

○そもそも「切れ目ない支援部会」とは、切れ目ないとはどこの切れ目を指しているのか。何のための部会なのか分かっていないので知りたい。

[事務局]

●本校の「切れ目ない支援部会」は、地域とのつながりを広げていくことを検討する部会として開かれている。

[委員]

○時間軸の切れ目がない方かと思っていたが、それだけではなく横への切れ目がないということか。

[司会]

●学校運営協議会は評価部会と学校が設定するいくつかの部会がある。特別支援学校は其中で「防災部会」「切れ目ない支援部会」を置くことになっている。縦のつながりだけでなく、それを支える横のつながりもある。

[事務局]

●幼・小・中・高・労へと縦のつながりを本来は協議しなければならない。今年度はそれを支える地域とのつながり、横のつながりをメインにしている。

[司会]

○喫茶班の飲みものやクッキーを振舞い、地域の方への居場所を用意するという事は、食べ物、飲み物の販売や提供となる。突き詰めていくと保健所の届が必要になるかもしれない。確認をしながら進めたほうがよい。

[委員]

○従来、相模原市と旧4町が合併したときに、それまであった高齢者の集まりを「サロン」という名称を変えて再編成した。月1回くらい地域でお茶会をやるというのが定着している。高齢化や、新しい人が入るのが難しいという部分があり衰退している。今年度、市社協から新しい職員が来て、相模原市でやっている「認知症カフェ」を包括の職員と組んでやり始めた。2回目をやまゆり園でやる。地域からは（これまでと違うことなので）批判もあったが、新しい動きがまた歴史をつくっていく。地域資源を活用しながら開催できるといい。ただ、学校の下駐車場から上がってくるのは距離がある。昔は「ダヤン」と連携してくればよいと思っていたが、ダヤンが辞めてしまったのでちょっともったいない。おいしい食事や飲み物もあってよかったのだが。

[司会]

○学校でやるだけでなく、地域の場所を借りてやるというのもよい。

[委員]

○12月5日13:30から、やまゆり園で初めての認知症カフェを実施し、ポッチャをやる予定。よかったら見学に来てよい。

[事務局]

第4回学校運営協議会は、「学校関係者と有識者による評価」となります。

令和7年3月4日（火）9時30分～11時30分

帝京大学大学院 教職研究科 及川 利紀 教授

社会福祉法人 かながわ共同会 津久井やまゆり園 永井 清光 園長

の出席のもと、評価をいただきます。

11 学校長挨拶（副校長）

本日もありがとうございました。学校や地域のつながりに関して、いつも温かいご意見に感謝しています。いただいた意見をこれからの教育活動に活かしていきたいと思います。引き続きご支援をおねがいします。

【配付資料】

- ・令和6年度 学校運営協議会 開催要項
- ・令和6年度 学校評価報告 目標設定
- ・学校評価保護者・教員・生徒アンケート（中間評価）集計結果
- ・学部・グループの中間評価
- ・学校関係者と有識者による評価について
- ・令和6年度 学校運営協議会 防災部会について
- ・令和6年度 学校運営協議会 切れ目ない支援部会について
- ・つくいだより（No.6）